

12月27日(月)

「がんばれば、実現できる」



(写真／左から2人目が濱本さん)

常滑市新浜町出身で、現在、女子ソフトボール日本代表の濱本静代さん(日立ソフトウエア所属)が市長を表敬訪問しました。

今年行われた世界選手権(ベネズエラ)準優勝、そしてアジア大会(中国)優勝のメダルを手に、海外大会での体験談などを語ってくれました。また、子どもらに向けて「始めた頃は下手だったけど、練習をがんばれば日本代表になれると自分で証明できた。みんなもがんばって！」とエールを送ってくれました。

12月25日(土)

「地元作家らの厚意に感謝」



年末恒例のチャリティ陶展が観光プラザ内のギャラリー一Ceraで開かれました。今年は74人の作家から130点の作品が寄せられました。市価よりも値打ちな値段で購入できるとあって、展示販売日である26日には朝早くから列ができるほどの盛況ぶりでした。

12月23日(木)

「駅前広場が華やかに」



「陶と灯の日」のイベントに展示されていた、モニュメントが名鉄常滑駅の駅前広場に設置されました。常滑陶彫会が煙突をイメージして制作したもので、暗くなると内部の電球が光るようになっています。1月30日までは県窯業技術センターが考案した常滑焼のLED照明350個も設置されています。モニュメントを見た人たちは「常滑らしい落ち着いた感じのイルミネーションですね」と評判も上々です。

12月21日(火)
「市民の救命協力に感謝」



バドミントンの練習中に倒れた男性の救命に協力したとして、市長から大野クラブ所属の8人に感謝状が贈られました。

「救急車が到着するまでの時間が大切。皆さんのおかげで一命を取りとめることができた。」と市長が謝意を述べ、救助者の一人は、「以前に受けた講習のおかげで、とっさに対応できた。」と語りました。

〈感謝状の贈呈者〉

瀧塚公予美さん、鯉江信明さん、浅井貴大さん、浅井佐友里さん、皆川玲子さん、森田裕美子さん、都築真弓さん、井上智晴さん

12月19日(日)
「練習の成果を披露」



常滑市ジュニア吹奏楽団の第5回定期演奏会が、市民文化会館で行われました。名古屋芸術大学非常勤講師早川秀一さんの指揮のもと、団員らは、吹奏楽では難しいと言われるピアノソナタ「悲愴」や軽快なアニメソングなどの演奏に挑戦。観客席からは大きな拍手が送られました。

12月16日(金)
「年末夜回り」



少年消防クラブと婦人防火クラブによる年末の恒例夜回りが始まりました。

初日となったこの日、奥条子ども会少年消防クラブが2つのグループに分かれてかじま台を回りました。子どもたちは拍子木を打ちながら、大きな声で「火の用心」と呼びかけていました。

12月16日(金)

「サンタさんダ」



青海保育園の「クリスマス会」にサンタクロースがやってきました。サンタクロースの正体はとこなめ焼卸団地(セラモール)の役員。子どもたちに喜んでもらおうと同団地の役員がサンタクロースに扮して、毎年市の施設で子どもたちにプレゼントを贈っています。「クリスマス会」では園児たちによる歌や演奏が披露された後、「リンリン」という鈴の音とともにサンタさんが登場。子どもたちはにっこりとした笑顔でプレゼントを受け取っていました。

12月15日(木)

「12年に一度の大祭」



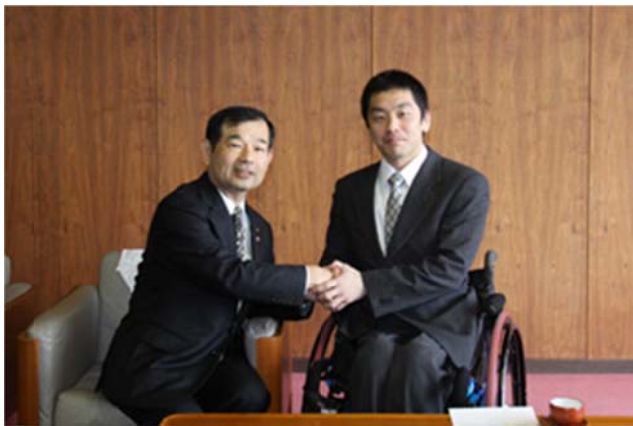
市の北部と知多市の南部にまたがる「大野谷」の地域に伝わる虫供養行事「道場供養」が西之口6丁目(西用寺西)に設置された会場で始まりました。県無形民俗文化財にも指定されており、大野谷の14地区が12年に1度当番を務めます。今年の当番地区である西之口地区では、約1カ月の期間中、朝夕念仏が唱えられるほか、日によってつくたての餅や甘酒が参詣客に振る舞われます。1月14日の夜には農作物の出来を占う「管粥(くだがゆ)占い」も行われます。

12月8日(水)

「全国3位を報告」



11月29日開催の全日本チアダンス選手権大会で3位に入賞した「ピーチ・チアーズ・ラブ」のメンバーで、西浦南小6年の岩田侑里愛さんと杉山このみさんが市長を表敬訪問しました。2人とも「緊張したけど、満足できる演技ができた。3位入賞はうれしいけど、悔しさもある。」と話し、次の大会での更なる飛躍を誓いました。



11月26日(金) 「世界で羽ばたけ」

日本障害者バドミントン選手権(BMW2 クラス)で8連覇中の長島理さんが、市長を訪問し、パラリンピックアジア大会(中国広州)への出場報告をしました。これまでの世界大会で銅メダルを手に入れている長島さんは、大会に向けて「強豪韓国の一 corner を崩して、銀メダル以上を持って帰りたい。」と語りました。



11月24日(水) 「特産のノリはいかが」

海苔の摘み取りが、11月下旬から鬼崎漁協と小鈴谷漁協で始まりました。鬼崎漁協によると「今年のおもむきは、やわらかくておいしい。色も例年以上。」とのこと。摘み取りは3月下旬ごろまで続きます。



11月7日(日) 「市民運動会」

老若男女が参加し、市内の4会場で第57回市民運動会が開かれました。玉入れや綱引きなどの区対抗競技が始まると、選手たちに各区のテントから大きな声援が送られ、会場は大いに盛り上がりました。



11月6日(土)、7日(日) 「森の中のクラフトフェア」

陶芸や彫金など常滑在住の作家が中心となり企画した「クラトコ」が、大曾公園にある森で開催されました。昨年に続き今年で2回目。会場では、陶芸などの展示販売のほか、ギターやバイオリンの演奏もあり、訪れた人は木漏れ日の射し込む森の中でゆったりとした時間を楽しみました。



11月3日(祝)
「常滑焼の先人に感謝と誓い」

常滑焼業界の先人をたたえる陶祖祭が、天神山(瀬木町)で行われ、関係者ら約100人が出席しました。式典は「鯉江方寿翁の歌」で始まり、とこなめ焼協同組合理事長の伊奈保昭さんが「先人に、常滑焼の火を守り普及に努めることを誓う。」とあいさつしました。



11月3日(祝)
「地元産の食を味わう」

第32回市農業まつりが常滑ボートレース場で開かれ、5000人の人出で賑わいました。牛乳や米粉パンなど地元農畜産物をアピールするための無料配布のほか、野菜や米粉入りラーメンの店に長い列ができ、安心できる地元産への関心の高さが伺えました。



10月30日(土)・31日(日)
「中央公民館まつり」

利用団体などが中心となり、第27回中央公民館まつりが開かれました。季節外れの台風の影響で、例年より人出が少ないようでしたが、会場を訪れた人たちは、バザーや展示、文化会館のホールで行われた活動発表などを楽しみました。



10月17日(日)
「掘り出し物を発見」

小脇公園の芝生広場で、恒例のフリーマーケットが催されました。服や雑貨、食べ物など約150店舗が所狭しと並び、朝早くから家族連れなどで賑わいました。この日は知多半島ケーブルネットワークによる、東海よしもお笑いグランプリの予選も行われ、若手芸人の元気いっぱいの声が会場に響き渡りました。

10月16日(土)・17日(日)

「尾張大野古今散策」



古い寺院や格子のある家が軒を連ね、風情が残る大野町一帯に、ギャラリー、飲食、雑貨販売など約60店が並び催し「尾張大野古今散策」が開かれました。醸造業を営んでいた旧家を利用した「ギャラリー善八」では家に古くから伝わる人形、着物、かんざしなどを展示。訪れた人たちはその素晴らしさに見入っていました。また、来年の大河ドラマの主人公で大野とゆかりのある「お江(ごう)」に中学生3人が扮して、撮影会も行われました。

10月10日(日)

「訓練の成果を披露」



常滑東小学校で市消防団消防操法大会が開かれました。前日の雨の影響で非常に滑りやすいコンディションでしたが、指揮者の号令がかかると団員たちは真剣な面持ちで機敏に動き、日ごろの訓練の成果を披露しました。

大会成績

優勝／青海分団、2班準優勝／青海分団1班、第3位／常滑分団1班

10月10日(日)・11日(日)

「窯屋まつり」



やきもの職人のイベント「窯屋まつり」が旧常滑高校で開かれました。まつり最大の行事である「窯屋神事」では神男である片岡秀美(かたおかひでみ)さんがろくろを使い、高さ60センチほどの花器をつくり、神前に奉納しました。

10月10日(日)・11日(日)

「先人の偉業を偲び」



常滑焼の歴史や先人の偉業を偲び、讃えるイベント「陶と灯の日」がイナックス・ライブ・ミュージアムなどで開かれました。日が沈み、LED やろうそくを使った常滑焼の照明に火が灯ると、やさしい灯りが会場を照らし、幻想的な雰囲気となりました。



10月9日(土)～17日(日)
「常滑フィールドトリップ」

やきもの散歩道や常滑中央商店街などで、芸大生らのグループが地域住民と関わりながら作品を制作し、街中に展示する催し「常滑フィールドトリップ 2010」が開かれました。訪れた人たちは、いつもとは一味違った町なみを楽しみながら作品を巡っていました。



10月5日(火)・6日(水)
「秋の収穫期を迎える」

樽水中坪の水田では、西浦北小学校の5年生が、手刈りやコンバインの運転をしながら収穫を体験。収穫した稲は市内の養鶏場で飼料米となる予定です。矢田打越では、三和東・常滑幼稚園の園児たちが保護者と稲刈りを体験。こどもたちは、前日来の雨でぬかるむ足元に苦戦しながらも収穫を楽しんでいました。